



柴田 徳文 教授

柴田 徳文 教授

1. 略 歴

昭和 21 年 6 月 17 日生

国士舘中学，国士舘高等学校を経て，国士舘大学政経学部政治学科卒業

昭和 46 年 国士舘大学大学院政治学研究科修士課程修了

昭和 50 年 国士舘大学大学院政治学研究科博士課程満期退学，

国士舘大学政経学部助手

昭和 53 年 米国，セント・ジョーンズ大学大学院 MA 課程修了

平成 13 年 国士舘大学政経学部教授

昭和 58 年～平成 2 年 国士舘短期大学副学長

昭和 59 年～平成 2 年，平成 27 年 12 月～平成 29 年 3 月 国士舘大学副学長

昭和 58 年～62 年 学校法人国士舘理事

昭和 58 年～平成 8 年 学校法人国士舘評議員

2. 主要研究業績

論文

「シュンペーターの帝国主義論に関する一考察」，国士舘大学政経学会『政経学会誌』第 5 号

「アメリカのパナマ侵攻と満洲事変」，国士舘大学日本政教研究所『政教研紀要』第 16 号

「アメリカのパナマ侵攻に見る自衛権」，国士舘大学政経学会『政経論叢』平成 4 年第 3 号（通号第 81 号）

「スティムソンの満洲事変観の検討」，国士舘大学日本政教研究所『政教研紀要』第 17 号

「東京裁判における 1915 年の日華諸条約・交換公文の理解についての考察」，国士舘大学日本政教研究所政教研叢書『法と政治——その現代的課題』（『政教研紀要』第 18 号）

「東京裁判」における満洲事変立証の検討」、『現代における憲法問題の諸相』
(国書刊行会)

「日本の在満権益は侵略によるものか」, 国士舘大学日本政教研究所政教研叢書
第2号『法と政治——その現代的課題』(『政教研紀要』第19号)

「東京裁判における関特演の侵略性の立証」, 国士舘大学日本政教研究所『政教
研紀要』第20号

「東京裁判における九カ国条約」, 国士舘大学日本政教研究所『政教研紀要』
第21号

「東京裁判における幣原外交」, 国士舘大学日本政教研究所『政教研紀要』
第22号

「東京裁判におけるパリ不戦条約」, 国士舘大学日本政教研究所『政教研紀要』
第24号

「東京裁判の起訴における共同謀議の始期について」, 国士舘大学日本政教研究
所『政教研紀要』第26号

「ハル・ノートは最後通牒だったのか」, 国士舘大学アジア・日本研究センター
『アジア・日本研究センター紀要』1号

研究ノート

「伝統文化の継承と発展—伝統工芸の将来—」, 国士舘大学アジア・日本研究
センター『アジア・日本研究センター紀要』10号

訳書

ジョン・スタック編『エスニシティの国際政治学』(共訳, 時潮社)

国際連合大学編『アラブの未来』(共訳, 刀水書房)